

「半生モズク」が初認定

国の農商工連携事業

静岡県商工連など沖縄県庁に報告

沖縄県産業政策課を訪問した
望月専務（中央）と加藤会長
（右）ら



【那覇】西光エンジニアリング(株)（静岡県藤枝市、岡村邦康社長）と沖縄県宮古島漁協（沖縄県宮古島市、儀保正司組合長）の半生モズクの生産販売事業が9月、国の農商工連携事業に認定されたことを受け、西光エンジニアリング沖縄営業所の大城敏光所長、静岡県商工会連合会の望月専務、伊豆の国市商工会の加藤寛治会長らがこのほ

ど、沖縄県観光商工部産業政策課を訪れた。事業の報告と県の協力要請を兼ねた訪問。

伊豆の国市商工会は農商工連携事業申請時からサポートしてきた経緯がある。農商工連携事業に認定された事業名は「宮古島モズクを用いた半生タマゴの商品開発と販売事業」。国の農商工等連携促進法施行後初の認定と

企業。

同事業を企画立案した西光エンジニアリングは以前から宮古島漁協のモズク加工場の洗浄機、選別機、脱水機、グリーンモズク生産ラインなどを納品、同漁協のモズクの品質向上を推進してきた

多い。サラヤやてんぷら、スープの具など多様な料理メニューの素材として活用できるという特徴がある。

なった。

マイクロ波を併用した乾燥機を導入、半乾燥し重量を50%程度にした半生モズクと収穫後に加熱殺菌し、包装・冷凍したグリーンモズクを生産、販売していく。いずれも従来のように塩蔵工程を入れないため、フコイダンなどの有効成分が

同事業申請などの段階からバックアップしてきた望月専務は「これモズクやグリーンモズクを機に静岡、沖縄両県を学校給食、産業給食などの産業のつながりが強どへ広めていくためのお化発展していけば素晴らしいことだ。農商工連した。

西光エンジニアリングに対し「農商工連携事業の趣旨を完全に理解、実地的確に事業化に踏み切ったことは評価できる。宮古島特産のモズクを利用したこの事業をぜひ成

功させたい」と述べた。望月専務は、来春開港する静岡空港の就航予定地域との幅広い経済交流実現も視野に入れているという。

みH201114 4面「半生モズク」が初認定